

令和7年度 こども園（保育園）関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート

子育てセンターみなみしま

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 8 年 2 月 26日 9:30 ~11:00

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

夢中になれる子～みんな大好き あそぶの大好き～

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

昨年度も「いいとこ みーつけた」を重点目標に掲げ、子どもたちが安心して自己表現ができる居心地の良い環境（人的・物的）について実践を重ねてきた。今年度も、子どもたち一人ひとりの「いいとこ」を見つけ、認め、自信を持って様々なことに挑戦できる環境（人的・物的）づくりと、さらに一歩深めた「みんなの いいとこみーつけた」を重点目標として、子どもの取り巻く様々な環境について教育・保育を進めていきます。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	3	グランドデザインについては理解しているが、十分な説明ができないと感じる。今後はさらに意識して、日々の教育・保育計画に落とし込んでいきたい。重点目標「みんなのいいとこみーつけた」については研修を通して、具体的な取り組み方法の可視化と、カンファレンス書式に取り入れることで意識することができた。また、掲示やお便り、懇談会など保護者へ発信する事で理解を深めている。	4	重点目標の「いいとこみつけ」が園の土台となり、目標への取り組みの様子が保護者に届いている。以上児のクラス集会の中にも取り入れ、子ども同士の気づきを大切にしている。懇談会のパワーポイントを使った園での様子もとてもわかりやすく伝わっている。カンファレンスによる気づきを言語化する取り組みは、今後も継続して取り組んでほしい。今後は、機会があれば保護者からも先生の「いいところ」を伝えていきたい。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	環境面では物を大切にすることや片付け等試行錯誤しながらも丁寧に伝えているが、なかなか定着が見られず課題を感じる。職員間の情報共有については、昨年度より意識して取り組むことが出来てきているが上手くいかないこともあり「遊びの連続性や行事、日々の教育・保育の継続」に課題が残る。連携の土台となる話し合う時間を工夫し作り出していきたい。	3	安全性に対する意識が高い。今後も子どもの安全環境へのアンテナは高く持ってほしい。職員同士の情報共有はとても大切なことであるため、今後も工夫しながら継続してほしい。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<p>研修を通して人権や性暴力について学び、子どもの姿を共有し理解する事で「安心して過ごせる環境」を整え実践してきた。散歩や園庭遊びを通して、異年齢児の関わりや、季節ならではの身近な自然に触れて楽しむことも出来た。「泥団子」や「生き物」の展示などを行い、子ども達が興味をもち、調べたり「やってみたい」という意欲にも繋がった。</p>	4	<p>安心して過ごすことのできる生活・遊び環境を目指し取り組んでいる為、遊びから学んでいることが多くある。学びの中の気づきが次の学びや意欲につながっていて「泥だんごコーナー」はまさにそのものである。園での経験が「やってみたい」と追及する気持ちや探求心に繋がっている。</p>
<p>Ⅳ. ファミリーにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ 	4	<p>保育参加や面談を通して、保護者の方に園での子どもの様子を見てもらったり、子どもの発達などについて共有する機会になっている。懇談会では、園での様子を伝えるだけでなく、保護者同士で子育てについて情報共有する場を設けることができた。園行事やクラス活動の様子を、園内掲示やブログ等で発信し、子ども達の成長した姿や園運営について理解してもらっている。今年度は保護者ボランティアを募り、園の行事に参加してもらう機会を設けた。</p>	4	<p>昨年度のボランティア募集をすることへの反省がしっかりと反映されている。1年目であるため、課題があって当たり前であるが、すぐに取り入れたことで信頼できる園であると感じる。保護者同士の情報共有もできている。</p>
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<p>支援センター利用者にとって園行事への参加や園庭の利用等、園児との交流の機会が増え、気軽に足を運べる場となっている。また、田植えや芋ほりなど地域の方の協力により貴重な体験を経験させてもらう機会となっている。また、ボランティアの受け入れも積極的に行った。今年度は法人のInstagram開設など、地域の方への情報発信に幅が広がった。</p>	4	<p>人との関わりが好きな子どもたちが多いため、地域としても支援センターや地域との繋がりがあがることをうれしく思う。法人のInstagramの開設も時代に合った方法を取り入れていて良い。</p>
<p>Ⅵ. スタッフにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性が活かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	4	<p>研修を通して職員一人ひとりの得意分野を可視化し伝え合うことで、職員の個性や得意なことを活かす事ができた。業務のスリム化や快適な職場環境作り（清掃・整理整頓等）の見直しについては課題があるため、今後も継続して取り組んでいきたい。</p>	4	<p>「子どもを真ん中に」を今後も一番に考えていってほしい。業務のスリム化にゴールはないと感じる。行事の削減や簡素化など保護者の理解を得ることは難しいが、子どものことを考えて今後も進めていってほしい。小学校との連携も引き続きお願いしたい。</p>